

H i s t o r i c a l

巖手歴史街道

義

Rectitude or Justice

勇

Courage

忠義

Loyalty

誠

Veracity or Truthfulness

名誉

Honor

礼

Politeness

仁

Benevolence

『武士道』（新渡戸稲造著）より改変



編集: 佐々木 綾

監修: 中居 賢司

藤井 茂(一般財団法人新渡戸基金)

日本の大政治家(原稿)

後藤新平



「日本の大政治家」(原稿) 後藤新平 (1857-1929) 政治家、実業家、学者。明治から大正にかけての日本の政治界、経済界、教育界に大きな影響を与えた。特に、日本の近代化と産業革命の推進に尽力した。代表作として『日本の政治』がある。

後藤新平の著作

野村胡堂



「日本の大政治家」(原稿) 野村胡堂 (1804-1865) 小説家、評論家。明治維新の精神を鼓舞した。代表作として『浮城物語』がある。

後藤新平の著作

三田俊次郎



「日本の大政治家」(原稿) 三田俊次郎 (1874-1945) 政治家、実業家。大正から昭和にかけての日本の政治界、経済界に大きな影響を与えた。代表作として『日本の政治』がある。

親交

「武士道」 (Bushido: The Soul of Japan)



義 (Rectitude or Justice) 勇 (Courage) 誠 (Veracity or Truthfulness) 仁 (Benevolence) 礼 (Politeness) 名 (Honor)

日本の伝統的な倫理観を表現した。武士道について、多くの論議がなされている。

新渡戸稲造



「日本の大政治家」(原稿) 新渡戸稲造 (1862-1933) 外交官、実業家、学者。明治から昭和にかけての日本の政治界、経済界、教育界に大きな影響を与えた。代表作として『武士道』がある。

新渡戸稲造 全集



日本赤十字社 創始者 佐野常民



「日本の大政治家」(原稿) 佐野常民 (1837-1904) 政治家、実業家。明治から大正にかけての日本の政治界、経済界に大きな影響を与えた。代表作として『日本の政治』がある。

日本赤十字社 代表社員 川西寛三



「日本の大政治家」(原稿) 川西寛三 (1874-1945) 政治家、実業家。大正から昭和にかけての日本の政治界、経済界に大きな影響を与えた。代表作として『日本の政治』がある。

日本赤十字社 現社員 近衛忠博



「日本の大政治家」(原稿) 近衛忠博 (1874-1945) 政治家、実業家。大正から昭和にかけての日本の政治界、経済界に大きな影響を与えた。代表作として『日本の政治』がある。

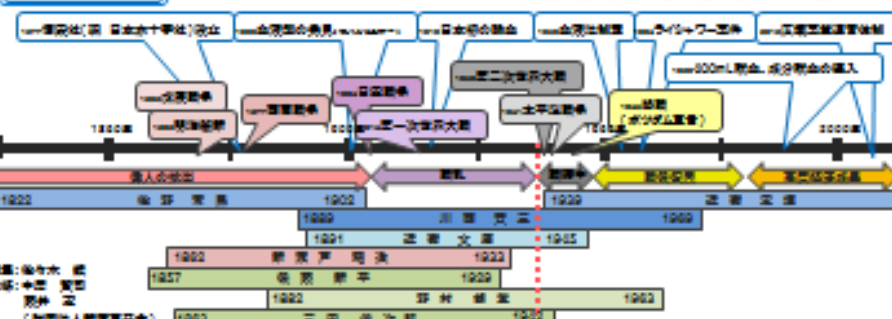
近衛文相



「日本の大政治家」(原稿) 近衛文相 (1874-1945) 政治家、実業家。大正から昭和にかけての日本の政治界、経済界に大きな影響を与えた。代表作として『日本の政治』がある。

偉人が生きた時代と 日本赤十字社の歩み

日本赤十字社の歩み



日本赤十字社 社長

近衛文相

①日本赤十字社の歴史

日本赤十字社 創始者

さ の つね た み
佐野常民



- ・1822年(文政5)12月28日～1902年(明治35)12月7日／佐賀出身
佐賀藩土下村充賢の五男として生まれる。
- ・1831年(8歳) 佐賀藩医佐野常徴の養子となり、佐賀藩校・弘道館に学び、その後、
漢学、医学、蘭学、物理学、化学、外科術、冶金術、航海術、造艦術、砲術などを学ぶ。
- ・1867年(44歳) パリ万国博覧会に参加。
 - 赤十字展示館で初めて赤十字と出会い、感銘を受ける。
- ・1873年(50歳) ウィーンで開催された万国博覧会に、明治政府から派遣され参加。
 - 再び各国赤十字社の展示を見学。
- ・1877年(54歳) 西南の役をきっかけに、博愛社創立の許可を得る。
- ・1886年(63歳) 日本が万国赤十字条約に加盟。
- ・1887年(64歳) 博愛社を日本赤十字社と改称し、初代社長に就任。
- ・1888年(65歳) 磐梯山噴火災害に救護班を派遣し、国内初の平時救護活動を行う。
- ・1894年(71歳) 日清戦争、1900年(77歳) 義和団の乱にて戦時救護活動を行う。
- ・1902年(79歳) 皇族以外に例のない「名誉社員」となる。12月7日、東京の自宅で死去。

日本赤十字社9代目社長

かわにしじつそう
川西實三



・1889年(明治21)1月2日～1978年(昭和53)3月3日／兵庫県出身

・第一高等学校を卒業後、東京帝国大学に進む。

校長である新渡戸稲造に生涯、心酔する

・1920年(31歳) ILO代表者随員としてジュネーヴに駐在。

・1932年(43歳)までに内務省社会局劳政課長、内務省社会局保健部長を務める。

・1936年(47歳)～1942年 埼玉県知事、長崎県知事、京都府知事、東京都知事を務める。

・1952年(63歳) 臨時医療保険審議会(強制医薬分業制度導入の是非を審議)会長となる。

・1956年(67歳) 社会保険審査会委員長となる。

・1965年2月(76歳)～1968年2月 日本赤十字社社長(9代目)を務める。

・1965年2月(76歳)～1968年4月 総理府中央防災会議委員を務める。

・1969年(80歳) 勲一等瑞宝章を賜る。

出典:「新渡戸稲造事典」佐藤全弘・藤井茂、教文館
Wikipedia

日本赤十字社 現社長

このえただてる
近衛 忠 輝



- ・1939年(昭和14)5月8日生まれ／東京都出身
- ・細川護貞(旧肥後熊本藩主細川家)と温子(近衛文麿の二女)の次男として生まれる。兄は細川護熙(第79代内閣総理大臣)。
- ・学習院大学を卒業後、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスへ留学し、国際関係論を学ぶ。
- ・留学先からの帰国途中に中東、アジアの紛争地を巡り、帰国後の1964年(25歳)に日本赤十字社に入社。甯子内親王(日本赤十字社副総裁三笠宮崇仁親王の長女)と結婚。
- ・外祖父の近衛文麿の長男で叔父にあたる文隆が死去し、近衛家の当主が不在となったため、1965年(26歳)に母の実家である近衛家の養子となる。
- ・1964年12月(25歳) 日本赤十字社入社外事部勤務
- ・1972年9月(33歳) 在ジュネーブ赤十字・赤新月社連盟勤務
- ・1981年4月(42歳) 在ジュネーブ赤十字・赤新月社連盟災害対策部長
- ・1988年8月(49歳) 同社会部長兼外事部長
- ・1991年4月(52歳)～2005年3月 同副社長
- ・1991年4月(52歳)～2005年3月 兼学校法人日本赤十字学園理事長
- ・1995年11月(56歳)～2003年11月 兼国際赤十字赤新月常置委員会委員
- ・2005年4月(66歳)～現在 日本赤十字社社長(14代目)
- ・2009年11月(70歳)～現在 兼国際赤十字・赤新月社連盟会長

出典: 日本赤十字社HP
Wikipedia

近衛社長の祖父

元内閣総理大臣

このえ 近衛 ふみ まろ 文麿

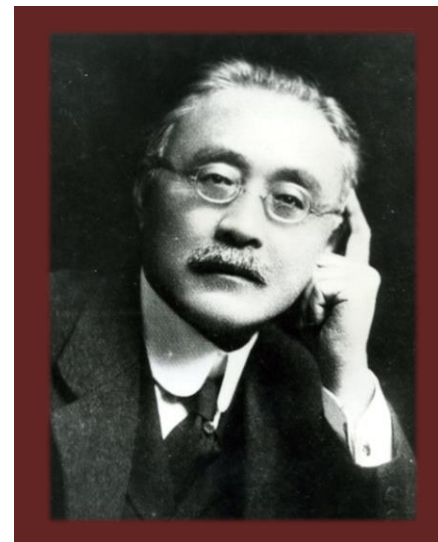


- 1891年(明治24)10月12日～1945年(昭和20)12月16日／東京都出身
- 五摂家の近衛家に長男として生まれる。(父:近衛篤麿)
- 第一高等学校に進学する。 校長の新渡戸稲造に感化され入学
- 1916年(25歳) 公爵として世襲である貴族院議員になる。
- 1937年(46歳)～1939年 第1次近衛内閣(史上2番目の若さで首相に就任)
.....
1937年7月 盧溝橋事件をきっかけに日中戦争が勃発。
- 1940年(49歳)～1941年 第2次近衛内閣
.....
- 1941年(50歳)～1941年 第3次近衛内閣(東條英機が次期首相)
.....
- 和平運動グループの中心人物として積極的に行動する。
- 1945年12月(54歳) 青酸カリを服毒し、自殺する。

出典:Wikipedia

②岩手県出身の偉人について

に と べ い な ぞ う 新 渡 戸 稲 造



・1862年(文久2)8月8日～1933年(昭和8)10月16日

南部藩出身(現 盛岡市)

・札幌農業学校在学中にキリスト教の洗礼を受け、卒業後に

アメリカ、ドイツへ留学し農学、経済学などを学ぶ。

・1891年(29歳) 札幌農業学校教授となる。

・1900年(38歳) 病気療養のため渡米中に『Bushido:The Soul of Japan』を執筆、アメリカで出版。

・1903年(41歳) 京都帝国大学法科大学教授となる。

・1906年(44歳) 第一高等学校校長 兼 東京帝国大学農科大学教授となる。

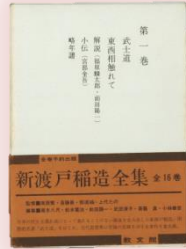
・1918年(56歳) 東京女子大学学長となり、当時遅れていた女子教育に取り組む。

・1920年(58歳)～1926年(64歳) 国際連盟事務次長に就任。

・1933年(71歳) カナダのビクトリア市にて客死。

出典:盛岡市先人記念館HP

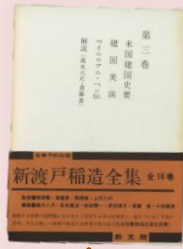
新渡戸稲造 全集



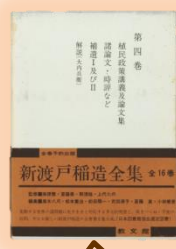
- 第1巻**
・武士道
・東西相触れて



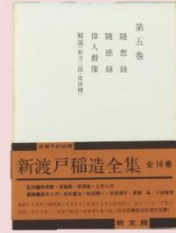
- 第2巻**
・農業本論
・農業発達史



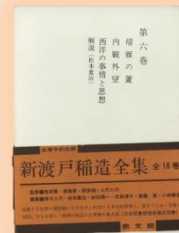
- 第3巻**
・米国建国要
・建国美談



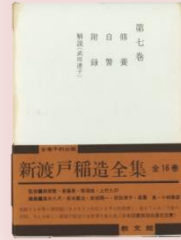
- 第4巻**
・植民政策抗議
及論文集
・諸論文・時評など
・補遺Ⅰ及びⅡ



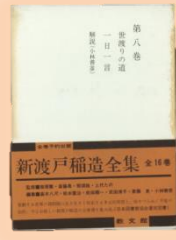
- 第5巻**
・随想録
・随感録
・偉人群像



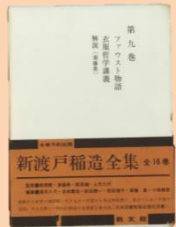
- 第6巻**
・帰雁の蘆
・内観外望
・西洋の事情
と思想



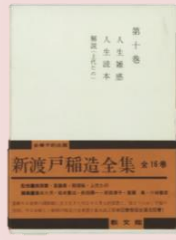
- 第7巻**
・修養
・自警
・附録



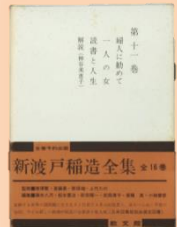
- 第8巻**
・世渡りの道
・一日一言



- 第9巻**
・ファウスト物語
・衣服哲学講義



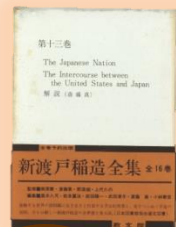
- 第10巻**
・人生雑感
・人生読本



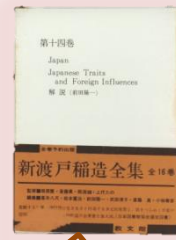
- 第11巻**
・婦人に勧めて
・一人の女
・読書と人生



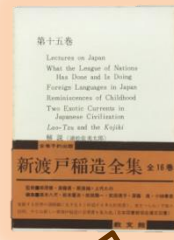
- 第12巻**
・Bushido, The
Soul of Japan
・Thoughts
and Essays



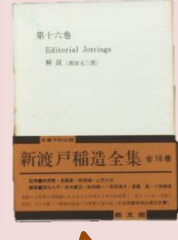
- 第13巻**
・The Japanese
Nation
・The Intercourse
between the
United States
and Japan



- 第14巻**
・Japan
・Japanese Traits
and Foreign
Influences



- 第15巻**
・Lectures on Japan
・What the League of
Nations Has Done
and Is Doing



- 第16巻**
・Editorial Jottings

「武士道」(Bushido : The Soul of Japan)



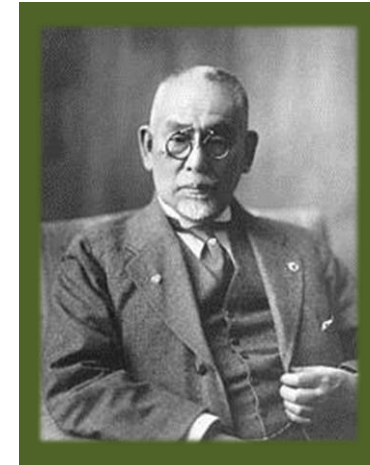
『武士道』(新渡戸稲造著)より改定



日本の伝統的な精神的基盤である道徳教育について記し、
多くの国で翻訳されている。

日本の大政治家(医師)

ごとう しんぺい
後藤 新平



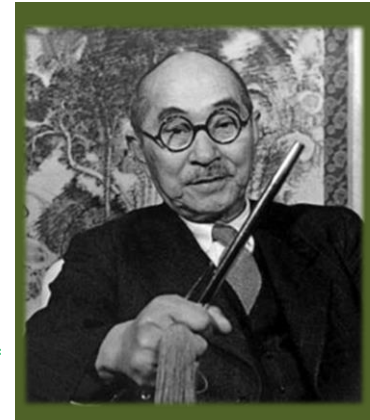
・1857年(安政4)6月4日～1929年(昭和4)4月13日

仙台藩 陸奥国胆沢郡鹽竈村出身(現 奥州市水沢区)

- ・1874年(17歳) 須賀川医学校に入学し、愛知県医学校に医師として勤務。
- ・1882年(25歳) 軍医の石黒忠直に認められ内務省衛生局に入る。
- ・1892年(35歳) ドイツ留学中の研究成果が認められ、内務省衛生局長に就任。
- ・1898年(41歳) 台湾の民政長官となり、経済改革とインフラ建設を進める。
- ・アメリカから新渡戸稲造を招き、台湾でのサトウキビとサツマイモの普及と改良を行う。
- ・1908年(51歳) 関東大震災後直後、内務大臣 兼 帝都復興院総裁として震災復興計画を立案。
- ・1919年(62歳) 拓殖大学学長に就任。 → 新渡戸稲造が学監として、共に働く。

銭形平次の作者

の む ら こ ど う
野 村 胡 堂



・1882年(昭和15)10月15日～1963年4月14日／紫波町出身

・1896年(14歳) 盛岡中学校(現 盛岡第一高等学校)入学。

→ 同窓生には金田一京助、下級生には石川啄木がいた。

・1904年(22歳) 第一高等学校に入学。(校長 新渡戸稲造)

・1907年(25歳) 東京帝国大学に入学するも、学資が続かず退学。「報知新聞」を発行する報知社
に入社し、人物評論や「あらえびす」の筆名でレコード評論を執筆。

有名な浄瑠璃の中の「奥州のあらえびす…」というくだりがあり、胡堂の「胡」が
そのあらえびすに相当するため、この名が誕生したという

・1931年(49歳) 文藝春秋発行の「文藝春秋オール讀物號」創刊号に、銭形平次を主人公にした

「金色の処女」を発表。以降、「銭形平次捕物控」は1957年まで383編を書いた。

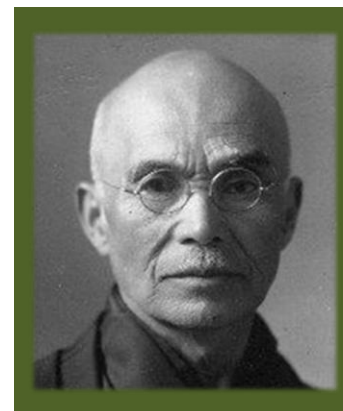
・1956年(74歳) 自らの著書を寄贈して紫波町彦部に胡堂文庫(現 紫波町公民館図書室)を設立。

・1963年(81歳) 紫波町に銭形記念図書館を設立。

出典: Wikipedia

岩手医科大学 創立者

み た し ゅ ん じ ろ う
三 田 俊 次 郎



- ・1863年(文久3)3月3日～1942年／南部藩出身(現 盛岡市)
 - ・東京帝国大学で眼科を学ぶ。
 - ・1897年(34歳) 私立岩手病院(現 岩手医科大学附属病院)を創設。
(明治30年)
同敷地内に「医学講習所」と「産婆看護婦養成所」を併設。
 - ・1901年(38歳) 岩手病院を実習場として、東北初の私立岩手医学校を設立。(1912年 廃校)
 - ・1928年(65歳) 文部省の許可を得て、岩手医学専門学校(現 岩手医科大学)を設立する。
.....
- 同年、新渡戸稲造が岩手病院に入院。また、年を経て、新渡戸稲造が留学した世界的医学部を持つ米国
ジョンズ・ホプキンス大学と岩手医大が、友好大学として結ばれるという縁もある。
- ・他にも、岩手サナトリウム(結核療養所)と岩手保養院(精神科病院)を設立。

出典:盛岡市HP、岩手医科大学HP

③偉人が生きた時代と日本赤十字社の歩み

日本赤十字社の歩み

